



1 課題

国の年齢階級別の自殺死亡率を見ると令和2年以降、20歳代を含め多くの世代で上昇しており、学生の多いまちである東広島市においても積極的に対策を図る必要がある。

2 概要

大学生を対象としたアンケート調査を実施し、自殺対策における東広島市の若者の課題を洗い出し、それに応じた心の健康教育プログラムの骨子を作成する。また、若者の自殺予防に効果的なSocial Networking Service (SNS) の活用方法についての知見を抽出し、心の健康教育プログラムや自殺予防啓発の取り組みに繋げる。

大学

西村 太志



広島国際大学
健康科学部心理学科
社会心理学 教授 (学科長)



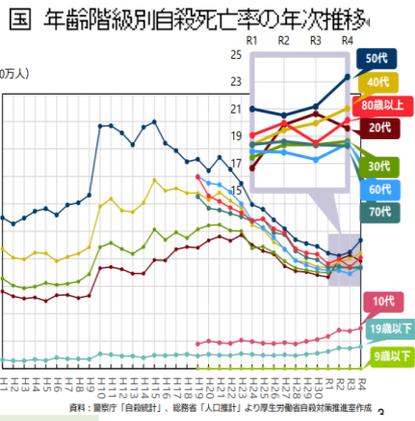
太田 真貴

広島国際大学
健康科学部心理学科
臨床心理学 客員講師

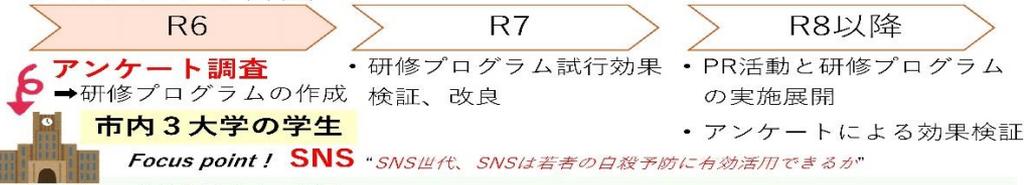
市担当課

X

健康福祉部医療保健課



本プロジェクトの流れと今年度の取り組み
プロジェクト計画



- Focus point! SNS “SNS世代、SNSは若者の自殺予防に有効活用できるか”
- ①大学生の精神的健康度の把握 (K6、自殺リスクの程度、ストレス要因や対処方法等)
 - ②大学生のSNS利用状況や目的
 - ③SNS上の対人関係も含め、大学生はどのような対人関係 (居場所) を築いているかの把握
 - ④相談することについて、大学生の態度や相談手段、相談ニーズの把握
 - ⑤『自殺対策』に対する学生の認識、自殺をほのめかす人への対処方略について
- ※①と②、③、④の関連を検討し、⑤の内容も含め研修プログラムの内容や方法を検討する

3 研究成果 データ取得・分析

自殺対策の必要性は、多くの学生が認識しており、学生が取り組めるようなアプローチが必要である。心理的苦痛の高い学生は多様なストレスを抱え、SNSを「逃避」目的で利用する傾向にあった。一方で、現実的な他者とのつながりは心の保護要因となり、これを補完するものとして、SNSの活用が有効であった。

4 今後の展望・現状 次の研究段階へ前進

- (1)心の健康教育プログラムの作成・施行
- (2)心の健康促進や自殺予防に関する知識を持ち、SNS等を利用して正しい情報を啓発できる人材育成研修
- (3)現実的な対人ネットワーク (つながり) を強化するための若者向け交流イベントの企画・試行

→ 令和7年度 共同研究型